

# 株式会社 翻訳センター 2022年3月期決算説明資料

2022年5月

株式会社翻訳センター

(東証スタンダード 証券コード：2483)



Copyright Honyaku Center Inc. All Rights Reserved.

株式会社翻訳センター 代表取締役社長の二宮でございます。  
本日は説明会にご出席いただき、誠にありがとうございます。  
それではこれよりご説明を始めます。

## 本日のご説明内容

1

I. 2022年3月期 業績

II. 今後の戦略 前中計の振り返りと五次中期経営計画 概要

III. 2023年3月期 見通し

IV. 株主還元

本日のご説明内容はご覧のとおりです。

## 本日のご説明内容

2

I. 2022年3月期 業績

II. 今後の戦略 前中計の振り返りと五次中期経営計画 概要

III. 2023年3月期 見通し

IV. 株主還元

まず、2022年3月期の業績についてご説明いたします。

## 1. 2022年3月期 業績

3

単位：百万円、%、円

	2021/3期	2022/3期	増減	
			増減	伸率
売上高	9,910	10,337	427	4.3
営業利益	418	811	393	94.0
経常利益	465	841	376	80.8
親会社株主に帰属する当期純利益	117	573	456	387.0
1株当たり当期純利益	35.39	172.14	—	—

\*2022年3月期においてはUS1ドル=110.37円で換算しています。

こちらのスライドでは、2022年3月期の業績についてご説明いたします。  
なお今期より収益認識に関する会計基準の変更を適用しております。

2022年3月期の売上高は103億3,700万、YoY4.3%増加、  
同営業利益は8億1,100万、YoY94.0%増加、  
同経常純利益は8億4,100万、YoY80,8%増加、  
同当期純利益は5億7,300万、YoY387.0%増加となりました。

## 2. 貸借対照表

単位：百万円

	2021/3期	2022/3期	増 減
<b>(資産の部)</b>			
流動資産	5,515	6,311	796
固定資産	780	861	81
<b>資産合計</b>	<b>6,295</b>	<b>7,172</b>	<b>877</b>
<b>(負債の部)</b>			
流動負債	1,595	1,891	296
固定負債	175	190	15
<b>負債合計</b>	<b>1,770</b>	<b>2,081</b>	<b>311</b>
<b>(純資産の部)</b>			
I. 株主資本	4,514	5,068	554
II. その他の包括利益累計額	10	22	12
<b>純資産合計</b>	<b>4,524</b>	<b>5,090</b>	<b>566</b>
<b>負債純資産合計</b>	<b>6,295</b>	<b>7,172</b>	<b>877</b>

Copyright Honyaku Center Inc. All Rights Reserved.



こちらのスライドでは、2022年3月期の貸借対照表についてご説明いたします。

総資産は71億7,200万、負債は20億8,100万、純資産は50億9,000万、YoYで5億6,600万増加となり、ほぼ利益が積み上がっている状況です。

### 3. 損益計算書

単位：百万円、%

	2021/3期		2022/3期			
		売上比		増減	伸率	売上比
<b>売上高</b>	9,910	100.0	10,337	427	4.3	100.0
売上原価	5,536	55.8	5,429	△107	△1.9	52.5
売上総利益	4,373	44.1	4,907	534	12.2	47.4
販売費及び一般管理費	3,955	39.9	4,096	141	3.5	39.6
<b>営業利益</b>	418	4.2	811	393	94.0	7.8
営業外収益	49	0.4	40	△9	△18.3	0.3
営業外費用	2	0.0	10	8	400.0	0.0
<b>経常利益</b>	465	4.6	841	376	80.8	8.1
特別利益	—	—	—	—	—	—
特別損失	193	1.9	2	△191	△98.9	0.0
<b>親会社株主に帰属する当期純利益</b>	117	1.1	573	456	387.0	5.5

Copyright Honyaku Center Inc. All Rights Reserved.



こちらのスライドでは、2022年3月期の損益計算書についてご説明いたします。

売上高は103億3,700万、YoY4.3%増加、  
 売上原価は54億2,900万、YoY1.9%減少、  
 売上総利益は49億700万、YoY12.2%増加と売上を上回る伸率を達成しています。  
 これは近年取り組んできた効率化の施策が奏功した結果だと認識しています。

これらの結果、営業利益は8億1,100万、YoY94.0%増加となりました。

## 4. セグメント別売上高

6

単位：百万円、%

	2021/3期		2022/3期			
	売上高	売上比	増減	伸率	売上比	
翻訳事業	7,520	75.8	7,828	308	4.1	75.7
特許	2,100	21.1	2,316	216	10.2	22.4
医薬	2,875	29.0	2,904	29	1.0	28.0
工業・ローカライゼーション	2,038	20.5	2,028	△10	△0.5	19.6
金融・法務	505	5.0	580	75	14.7	5.6
派遣事業	1,228	12.3	1,212	△16	△1.3	11.7
通訳事業	477	4.8	655	178	37.0	6.3
コンベンション事業	298	3.0	220	△78	△26.1	2.1
その他	385	3.8	420	35	9.1	4.0
売上高合計	9,910	100.0	10,337	427	4.3	100.0

\*その他には語学教育事業および外国出願支援事業などが含まれます。

\*従来報告セグメントとして開示しておりました語学教育事業は、量的な重要性が低下したため2022年3月期4Qより報告セグメントから除外し、その他として記載する方法に変更しています。また前期のセグメント情報は当期の報告セグメントの区分に基づき作成したものを開示しています。

\*前期収益基準で換算した工業・ローカライゼーションの売上高は2,291百万円（伸率 +12.4%）

Copyright Honyaku Center Inc. All Rights Reserved.



こちらのスライドでは、2022年3月期のセグメント別売上高についてご説明いたします。

翻訳事業は78億2,800万、YoY4.1%増加となりました。

特許分野は特許事務所が好調でYoY10.2%増加、

医薬分野はYoY1.0%増加と堅調に推移しました。

工業・ローカライゼーション分野はYoY0.5%の減少ですが、

機械翻訳「Mirai Translator」の販売に伴う収益認識の変更（※）が影響しており、前期の基準で換算すると22億9,100万、YoY12.4%増加と大きく回復しています。

金融・法務分野は保険関連の大型案件が寄与し5億8,000万、YoY14.7%増加となりました。

続いて、派遣事業はYoY1.3%減少となりました。

もともと安定した事業ではありますが、22/3期は減収でしたので、

もう一段、上昇させたいと考えています。

続いて、落ち込んでいたセグメントである通訳事業とコンベンション事業ですが、通訳事業はオンライン通訳サービスの利用拡大もありYoY37.0%増加となりました。

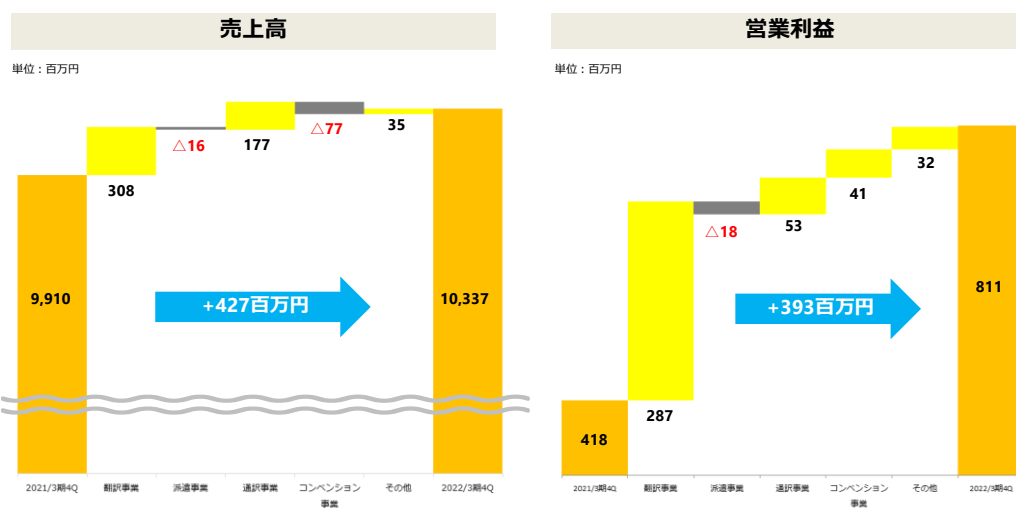
現在はコロナの影響からの回復過程であると認識しています。

コンベンション事業はYoY26.1%減少と2期連続の減収となりました。

依然として厳しい状況が続いています。

※詳細は4Q決算短信p13の【注記事項】（会計方針の変更）（収益認識に関する会計基準等の適用）欄を参照ください。

## 5. セグメント別動向



\*営業利益グラフはセグメント間取引消去、ならびに、のれん償却は含めておりません。

Copyright Honyaku Center Inc. All Rights Reserved.



こちらのスライドでは、2022年3月期のセグメント別動向についてご説明いたします。

これらは売上高と営業利益を事業別にYoYで比較し、増減幅を示したグラフです。売上は前ページのスライドでご説明したとおりです。

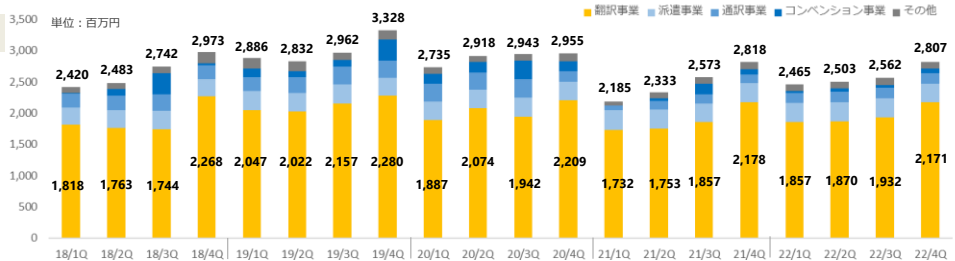
営業利益については派遣事業以外はプラス方向に積み上がっています。通訳事業とコンベンション事業はいずれも22/3期のセグメント利益が赤字（※）ですが、赤字幅の縮小という点で、21/3期に比べて連結業績に貢献していると考えます。

※詳細は4Q決算短信p15-16の報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産その他の項目の金額に関する情報及び収益の分解情欄を参照ください。

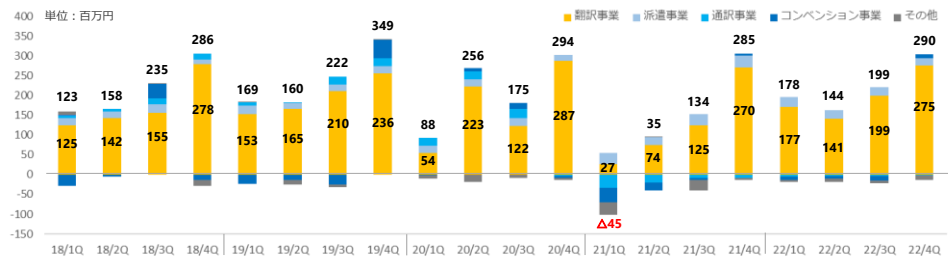


## 6. 四半期推移

### 売上高



### 営業利益



Copyright Honyaku Center Inc. All Rights Reserved.



こちらのスライドは四半期の業績推移をセグメント別に示したものです。

連結売上高をご覧ください。

22/4Qは28億700万でほぼ前期並み、20/4Qは29億5,500万ですので、通訳事業やコンベンション事業が回復していけば、もう一段、戻る余地はあると考えています。

通訳事業についてはほぼコロナ前の水準に戻っていますので、成長の段階に入ってきていると評価しています。

## 本日のご説明内容

9

I. 2022年3月期 業績

II. 今後の戦略 前中計の振り返りと五次中期経営計画 概要

III. 2023年3月期 見通し

IV. 株主還元

では次に、今後の戦略として、前中計の振り返りと新たに策定した第五次中期経営計画の概要をご説明いたします。

# 1. 第五次中期経営計画 前中計の振り返り

10

## ソリューション提案力の強化



- ・分野特化型機械翻訳「製薬カスタムモデル」の開発・販売により、人手翻訳の発注が当社に集約する仕組みを構築し、顧客内シェア拡大に成功した
- ・一方で機械翻訳の導入を推進したものの、人手翻訳の集約に結びつかない分野もあった

## 言語資産の活用



機械翻訳（MT）とPE\*を下訳として活用することで翻訳事業の粗利率向上を実現

## 経営基盤の整備



BPMSの開発を進めるも、2020年9月に開発を断念

\*ポストエディット、機械翻訳（MT）で翻訳した文章を校正し、人手翻訳に近づける作業

Copyright Honyaku Center Inc. All Rights Reserved.



こちらのスライドでは、先の中期経営計画の振り返りについてご説明いたします。

先の中計では戦略面で3つの重点施策を掲げておりました。

1点目の「ソリューション提案力の強化」では、成果と課題の両方があったと評価しています。

この施策は、機械翻訳を導入いただいたお客様に対し、追加学習による機械翻訳の精度向上や人手翻訳との組み合わせをご提案することで、人手翻訳案件の当社への集約化を狙うものでした。

この施策を具現化したのが医薬分野で展開した「製薬カスタムモデル」であり、実際に機械翻訳の導入が人手翻訳案件の集約化に繋がっております。

他方で、医薬以外の分野では、機械翻訳を導入していただきながら人手翻訳案件の集約化までには至らなかったケースもあり、継続課題だと認識しています。

2点目の「言語資産の活用」は機械翻訳を下訳として活用することで売上総利益を拡大する取り組みを指します。こちらは成果が現れたと評価しています。冒頭でご説明した連結粗利率の向上はこの取り組みが大きく寄与したと考えています。

最後に「経営基盤の整備」については、BPMSの開発を狙っておりましたが、開発が頓挫しました。今後、BPMSとは異なる方法で社内のIT基盤の整備を進めていきたいと考えています。

## 2. 第五次中期経営計画 基本方針と重点施策

11

### 基本方針

ビジネス環境の変化やデジタル化の進展に対応しつつ、業界・ドキュメント別に最適化された言語資産の活用モデルを確立し、対象市場でのプレゼンスを高め、持続的な成長を実現する。

### 重点施策

- **ドキュメント集約メカニズムの構築**
  - ドキュメント軸による新たな専門特化領域の育成
  - 顧客体験価値向上・案件集約の仕組みづくり
- **ドキュメント別言語資産活用モデルの確立**
  - ドキュメント別モデル作成によるMT（機械翻訳）精度の向上
  - プロセス改善による生産効率の向上
- **働き方改革や事業変革を支える経営基盤の整備**
  - 働き方改革などのニューノーマルに対応した労働・職場環境の実現
  - IT人材・技術への積極的な投資と事業変革を支える経営基盤の整備

Copyright Honyaku Center Inc. All Rights Reserved.



こちらのスライドでは、新たに策定した第五次中期経営計画についてご説明いたします。

基本方針は

「ビジネス環境の変化やデジタル化の進展に対応しつつ、業界・ドキュメント別に最適化された言語資産の活用モデルを確立し、対象市場でのプレゼンスを高め、持続的な成長を実現する。」です。

重点施策の3点については、

「ドキュメント集約メカニズムの構築」をより進化させたいと考えています。先ほどご説明した「製薬カスタムモデル」のような取り組みを多方面、多領域に展開していきたいと考えています。

「ドキュメント別言語資産活用モデルの確立」については機械翻訳の性能向上と翻訳作業の前後のプロセスの改善により、さらなる生産性の向上に取り組んでいきたいと考えています。

「働き方改革や事業変革を支える経営基盤の整備」については前中計の反省点ですので、継続課題として引き続き取り組んでいきたいと考えています。

### 3. 第五次中期経営計画 業績目標

12

重点施策の遂行を通じ、さらなる成長と収益性向上を追求

#### ■業績目標

単位：百万円、%

	2022年3月期 実績	2025年3月期 目標	増減	伸率
売上高	10,337	12,100	1,763	17.0
営業利益	811	1,100	289	35.6
当期純利益	573	750	177	30.8

#### ■経営指標

	2022年3月期 実績	2025年3月期 目標
連結営業利益率	7.8%	9%
自己資本利益率 (ROE)	11.9%	12%

Copyright Honyaku Center Inc. All Rights Reserved.



こちらのスライドでは、新たに策定した第五次中期経営計画の業績目標についてご説明いたします。

第五次中計の重点施策を着実に遂行することにより、さらなる成長と収益性向上を追求していきたいと考えています。

2025年3月期の売上目標は121億、営業利益は11億、当期純利益は7億5,000万、経営指標として連結営業利益率9%、ROE12%を掲げています。

## 本日のご説明内容

13

I. 2022年3月期 業績

II. 今後の戦略 前中計の振り返りと五次中期経営計画 概要

III. 2023年3月期 見通し

IV. 株主還元

次に、新中計の初年度である2023年3月期の見通しについてご説明いたします。

## 1. 2023年3月期 業績予想

14

単位：百万円、%、円

	2022/3期	2023/3期 (予)				
			増 減	伸 率	1-2Q累計 (予)	3-4Q累計 (予)
売上高	10,337	11,100	762	7.3	5,350	5,750
営業利益	811	910	98	12.1	340	570
経常利益	841	920	78	9.3	345	575
親会社株主に帰属する 当期純利益	573	620	46	8.1	230	390
1株当たり純利益	172.14	185.98	—	—	69.02	116.96
1株当たり配当金	40.0	45.0	—	—	—	—

※2023年3月期予想においては、US1ドル=120.00円で換算しております。

Copyright Honyaku Center Inc. All Rights Reserved.



こちらのスライドでは、  
中計初年度である2023年3月期の通期予想についてご説明いたします。

2023年3月期の通期予想は  
売上高が111億、YoY7.3%増加、  
営業利益が9億1,000万、YoY12.1%増加、  
当期純利益が6億2,000万、YoY8.1%の増加を予想しています。

## 2. セグメント別売上高 予想

15

単位：百万円、%

	2022/3期		2023/3期 (予)			
	売上高	売上比	増減	伸率	売上比	
翻訳事業	7,828	75.7	8,500	672	8.6	76.6
特許	2,316	22.4	2,540	223	9.7	22.9
医薬	2,904	28.0	3,100	196	6.7	27.9
工業・ローライゼーション	2,028	19.6	2,220	191	9.5	20.0
金融・法務	580	5.6	640	59	10.3	5.8
派遣事業	1,212	11.7	1,270	57	4.8	11.4
通訳事業	655	6.3	720	64	9.9	6.5
コンベンション事業	220	2.1	180	△40	△18.5	1.6
その他	420	4.2	430	9	3.9	3.9
売上高合計	10,337	100.0	11,100	762	7.4	100.0

\*その他には語学教育事業および外国出願支援事業などが含まれます。

Copyright Honyaku Center Inc. All Rights Reserved.



こちらのスライドでは、  
2023年3月期の事業別売上高予想についてご説明いたします。

翻訳事業は85億、YoY8.6%増加を予想しています。  
分野別に申し上げますと、  
特許分野は22/3期は大きく伸長しましたが、23/3期もその傾向が続くと想定しており、25億4,000万、YoY9.7%増加を予想しています。  
医薬分野はわれわれの強みである開発領域に加え、マーケティングや臨床領域にもサービス提案をしていくことで、31億、YoY6.7%増加を予想しています。  
工業・ローライゼーション分野と金融・法務分野については  
翻訳事業のなかではコロナ影響が出ている分野のため、回復余地もあると考え、  
工業・ローライゼーション分野は22億2000万、YoY9.5%増加を、  
金融・法務分野は6億4,000万、YoY10.3%増加を予想しています。

派遣事業は12億7,000万、YoY4.8%増加を予想しています。  
22/3期は減収でしたので、23/3期は成長トレンドに戻したいと考えています。

通訳事業は7億2,000万、YoY9.9%増加を予想しています。  
22/3期はコロナ禍による落ち込みからのリバウンドで大きく回復しましたが、  
今もなお、ウェブを使った案件が多く、対面形式の案件が増えないと  
業績が戻りにくい状況にあります。

コンベンション事業は1億8,000万、YoY18.5%減少を予想しています。  
コンベンション事業を取り巻く環境は依然として厳しい状況にあります。  
売上が厳しい分、縮小均衡であったとしても利益を出せる状態にするのが  
当面の課題だとも認識しています。



### 3. 損益計算書 予想

16

単位：百万円、%

	2022/3期		2023/3期 (予)			
		売上比		増 減	伸 率	売上比
売上高	10,337	100.0	11,100	762	7.3	100.0
売上原価	5,429	52.5	5,800	370	6.8	52.2
売上総利益	4,907	47.4	5,300	391	7.9	47.7
販売費及び一般管理費	4,096	39.6	4,390	293	7.1	39.5
営業利益	811	7.8	910	98	12.1	8.1
営業外損益	29	0.2	10	△19	—	—
経常利益	841	8.1	920	78	9.3	8.2
特別損益	△2	—	—	2	—	—
親会社株主に帰属する当期純利益	573	5.5	620	46	8.1	5.5

Copyright Honyaku Center Inc. All Rights Reserved.



こちらのスライドでは、  
2023年3月期の損益計算書予想についてご説明いたします。

先のスライドでもご説明した通り、売上は111億で予想しています。  
売上原価は58億、YoY6.8%の増加、  
売上総利益は53億、YoY7.9%増加、  
売上総利益率は47.7%、YoY0.3ポイント増加、  
販管費は43億9,000万、YoY7.1%増加、  
営業利益は過去最高の9億1,000万、YoY12.1%増加を予想しています。

## 本日のご説明内容

17

I. 2022年3月期 業績

II. 今後の戦略 前中計の振り返りと五次中期経営計画 概要

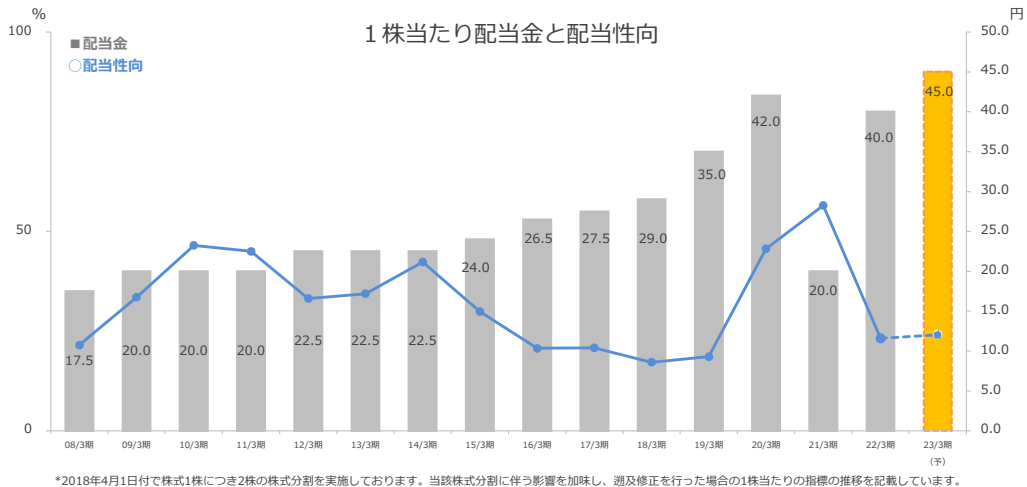
III. 2023年3月期 見通し

IV. 株主還元

それでは最後に、株主還元についてご説明いたします。

# 1. 株主還元

23/3期の配当は1株当たり45円を予想（前期比+5円）



Copyright Honyaku Center Inc. All Rights Reserved.



こちらのスライドでは、株主還元についてご説明いたします。

当社はこれまで減配することなく、  
 わずかでも増配することを念頭において事業を運営してきました。  
 21/3期はコロナの影響によりやむなく一時的な減配をご了承いただきましたが、  
 22/3期は2月に配当予想の修正を行い、40円に戻しました。  
 23/3期は過去最高の利益を目論むという点もありますので、  
 1株当たり45円と過去最高水準の配当額を予想しています。

以上で私からのご説明を終了いたします。  
 ご清聴ありがとうございました。

## 【参加者からのご質問】

Q1：市場再編による英文開示の義務化は需要拡大の機会となりますか

A1：はい、拡大の契機になると期待しています。実際に足元においてもIR翻訳の翻訳のお問合せやご依頼が増えてきています。当社はIR関連文書、主に決算短信と招集通知の翻訳を数多く手掛けており実績もありますので、これらの需要を取り込んでいきたいと考えています。

## 参考資料

# 1. 事業セグメントおよびグループ会社 一覧

20

	翻訳 事業	通訳 事業	派遣 事業	コンベンション 事業	その他
翻訳センター	●				●
アイ・エス・エス		●	●	●	●
外国出願支援サービス					●
パナシア	●				
HC Language Solutions, Inc.	●				
メディア総合研究所	●				

\*2015年4月設立のランゲージワン（株）（多言語コンタクトセンター事業）は持分法適用会社につき、事業セグメントには含まれておりません。

\*（株）アイ・エス・エスは2020年4月1日付で語学教育事業を展開する（株）アイ・エス・エス・インスティテュートを吸収合併しています。

\*語学教育事業は、量的な重要性が低下したため2022年3月期4Qより報告セグメントから除外し、その他として記載する方法に変更しています。

## 2. 連結業績推移

21

	2017/3期	2018/3期	2019/3期	2020/3期	2021/3期	2022/3期
売上高（百万円）	10,218	10,618	12,008	11,550	9,910	10,337
経常利益（百万円）	699	812	905	822	465	841
親会社株主に帰属する当期純利益（百万円）	444	566	630	304	117	573
資本金（百万円）	588	588	588	588	588	588
発行済株式総数（株）（*1）	1,684,500	1,684,500	3,369,000	3,369,000	3,369,000	3,369,000
純資産額（百万円）	3,477	3,939	4,350	4,545	4,524	5,090
総資産額（百万円）	5,111	5,741	6,486	6,222	6,295	7,172
自己資本比率（%）	68.0	68.6	67.0	73.0	71.8	70.9
売上高経常利益率（%）	6.8	7.5	7.4	7.0	4.7	8.1
従業員数（人）（*2）	413	518	507	522	509	518
登録者数（人）（*3）	4,428	4,221	2,889	3,030	3,249	2,681

\*1 2018年4月1付で普通株式1株につき2株の株式分割を実施

\*2 連結正社員数

\*3 翻訳センター単体登録者数、19/3期より算出方法を一部変更

### 3. 事業別業績推移

22

単位：百万円

	2017/3期	2018/3期	2019/3期	2020/3期	2021/3期	2022/3期
翻訳事業	7,035	7,593	8,506	8,112	7,520	7,828
特許	1,824	1,880	2,139	2,258	2,100	2,316
医薬	2,445	2,744	2,897	2,749	2,875	2,904
工業・ローライゼーション	2,020	2,239	2,725	2,472	2,038	2,028
金融・法務	745	729	744	632	505	580
派遣事業	900	1,127	1,192	1,200	1,228	1,212
通訳事業	783	933	1,039	1,022	477	655
コンベンション事業	1,107	496	677	782	298	220
その他	390	466	592	432	385	420
売上高合計	10,218	10,618	12,008	11,550	9,910	10,337

## 4. 損益計算書 推移

23

単位：百万円、%

	2017/3期		2018/3期		2019/3期		2020/3期		2021/3期		2022/3期	
		構成比		構成比		構成比		構成比		構成比		構成比
<b>売上高</b>	<b>10,218</b>	100.0	<b>10,618</b>	100.0	<b>12,008</b>	100.0	<b>11,550</b>	100.0	<b>9,910</b>	100.0	<b>10,337</b>	100.0
売上原価	6,026	58.9	6,112	57.5	6,999	58.2	6,625	57.4	5,536	55.9	5,429	52.5
売上総利益	4,191	41.0	4,506	42.4	5,009	41.7	4,925	42.6	4,373	44.1	4,907	47.4
販売費及び一般管理費	3,494	34.2	3,704	34.8	4,108	34.2	4,111	35.6	3,955	39.9	4,096	39.6
<b>営業利益</b>	<b>697</b>	6.8	<b>802</b>	7.5	<b>900</b>	7.4	<b>813</b>	7.0	<b>418</b>	4.2	<b>811</b>	7.8
営業外収益	5	0.0	10	0.0	5	0.0	10	0.1	49	0.4	40	0.3
営業外費用	3	0.0	0	0.0	0	0.0	1	0.0	2	0.0	10	0.0
<b>経常利益</b>	<b>699</b>	6.8	<b>812</b>	7.6	<b>905</b>	7.5	<b>822</b>	7.1	<b>465</b>	4.6	<b>841</b>	8.1
特別損益	1	0.0	12	0.0	50	0.4	△324	-	△193	-	△2	-
税金等調整前当期純利益	700	6.9	824	7.7	954	7.9	498	4.3	271	2.7	838	8.1
<b>親会社株主に帰属する当期純利益</b>	<b>444</b>	4.3	<b>566</b>	5.3	<b>630</b>	5.2	<b>304</b>	2.6	<b>117</b>	1.1	<b>573</b>	5.5
<b>販売費及び一般管理費</b>	<b>3,494</b>	100.0	<b>3,704</b>	100.0	<b>4,108</b>	100.0	<b>4,111</b>	100.0	<b>3,955</b>	100.0	<b>4,096</b>	100.0
人件費	2,537	72.6	2,653	71.6	2,878	70.0	2,926	71.2	2,786	70.4	2,984	72.8
人件費以外	957	27.4	1,051	28.4	1,230	30.0	1,185	28.8	1,169	29.6	1,112	27.2



## 5. 貸借対照表 推移

単位：百万円

	2017/3期	2018/3期	2019/3期	2020/3期	2021/3期	2022/3期
<b>(資産の部)</b>						
流動資産	4,632	4,668	5,220	5,213	5,515	6,311
固定資産	478	1,072	1,265	1,009	780	861
<b>資産合計</b>	<b>5,111</b>	<b>5,741</b>	<b>6,486</b>	<b>6,222</b>	<b>6,295</b>	<b>7,172</b>
<b>(負債の部)</b>						
流動負債	1,543	1,718	1,974	1,503	1,595	1,891
固定負債	90	83	161	173	175	190
<b>負債合計</b>	<b>1,633</b>	<b>1,801</b>	<b>2,135</b>	<b>1,676</b>	<b>1,770</b>	<b>2,081</b>
<b>(純資産の部)</b>						
I. 株主資本	3,449	3,923	4,332	4,531	4,514	5,068
II. その他の包括利益累計額	28	15	17	13	10	22
III. 少数株主持分	—	—	—	—	—	—
<b>純資産合計</b>	<b>3,477</b>	<b>3,939</b>	<b>4,350</b>	<b>4,545</b>	<b>4,524</b>	<b>5,090</b>
<b>負債純資産合計</b>	<b>5,111</b>	<b>5,741</b>	<b>6,486</b>	<b>6,222</b>	<b>6,295</b>	<b>7,172</b>

株式会社翻訳センター 経営企画室

TEL:03-6369-9963 E-mail:ir@honyakuctr.co.jp

URL : <https://www.honyakuctr.com/>

本資料は、業績に関する情報の提供を目的としたものであり、当社が発行する有価証券の投資を勧誘するものではありません。  
本資料に掲載された意見や予測等は資料作成時点での当社の判断であり、その情報の正確性、完全性を保証し、または  
約束するものではなく、また今後、予告なしに変更されることがあります。